

# 担い手育成と技術普及の場としてのかんきつ園地再編復旧

園地整備

担い手育成

○取組者：JAおちいまばり

○所在地：愛媛県今治市（上浦地区）

○問合せ先：愛媛県今治支局地域農業育成室しまなみ農業指導班（0897-72-2325）

活用した国の事業（予定等を含む）：農地中間管理機構関連農地整備事業（R3～R7）、未来型果樹農業等推進条件整備事業（R4～R7）、産地生産基盤パワーアップ事業（予定）等

盛工区(R6.3)



スマート農業

整列樹形

## 【取組概要】

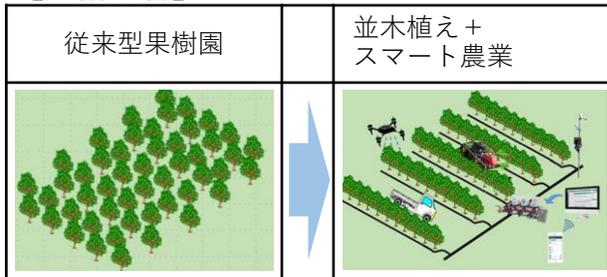
- ・当該産地は農業就業人口の減少や高齢化の進行に伴う担い手不足と耕作放棄地の増加が深刻。
- ・こうした中、平成30年7月の西日本豪雨により、樹園地の崩落等の被害が発生。被災園地の復旧を断念する人が多く、更なる耕作放棄地の拡大を懸念。

- ・被災園地を先進的な果樹経営の**未来型園地として再建**することを目指す。

- ・農地中間管理機構が借り受けた園地について、県が農地整備を実施。
- ・**JAが中心**となり、モデル園に優良品種を新植とスマート農業技術を導入し、**新規就農者の育成**と、地域に適した先進的な栽培技術体系の確立・普及拡大に活用。

- ・JA指導のもと新規就農者（研修生）がデータの収集・園地管理を行い、一定の収量が見込める段階で、新規就農者にモデル園の**一部を継承**予定。

## 【整備内容】



並木植えで大苗が定植された様子。周りに緑肥が植えられている。（矢印は苗木）

並木植とスマート農業技術（防除用ドローン、草刈ロボット、データ駆動型栽培管理システム（気象クラウドシステム、遠隔自動かん水システム））を導入。収穫量は慣行栽培よりも下がるが、作業性の向上と機械化により、労働生産性の向上を図っている。（作業時間当たりの収穫量：15kg/時間 → 18kg/時間）

## 【苦労】

農地の地権者や被相続人が多岐に及ぶ。

## 【工夫】

地元の信頼が厚い**JA主導**で交渉。

## 【苦労】

特殊土壌（花崗岩風化土）ゆえの雨による**土壌流亡**に苦慮。

## 【工夫】

土壌流亡対策として、**樹間に緑肥植物（ソルゴー）**を植栽。

★入植者の費用負担が最小限（ランニングコスト+賃料+ $\alpha$ ）になるように配慮。

## 【工夫】

- ・農地整備は、県が国費＋県費＋市費で実施。
- ・新植やスマート農業の導入等は、JAが国費＋県費＋市費＋JAで実施。

## 【今後の展望】

- ・園地は新規就農者に継承しつつ、一部をJAの研修園地として利用。
- ・**データ駆動型栽培管理システム**を活用し、データを使った農業を実証することで、**誰がやってもできる農業の実践を目指す**。